文月（ふみづき）　第677号

むなかた

目次

宗像国際環境100人会議　3・2
藤原新也氏写真展ご案内　4
UMI・SACHI推進会議　4
沖ノ島祭祀　5
神宝館だより・造営日記　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よってき。『昔は良かった。』中津宮・大島の漁師が一様に口にする、魚が大量に捕れたという意味の言葉だ。昭和三十年には二千人以上の人口がいた大島、現在は七百人を割り、六十五歳以上の割合が四十五％。島民のほとんどが漁業に携わる島での極端な人口減少。魚が捕れず、島外へと出て行ったのだ。枯渇する水産資源。乱獲が原因ともいわれるが、海水温の上昇や磯焼けなど、我々人間がもたらした環境破壊によるものが大きい▼船に計器がない時代の漁師は、山の色や、木々の揺れ方を見て、嵐や突風などの兆候を察知したと聞く。時化のときには山に入り燃料である薪や漁で使う道具を調達することで山も管理していたのだ。先人達は豊かな山の水が海に注ぎ、豊かな漁場を作ることを解っていたのだ。GPSやソナーが完備された漁船は、あらゆる面で過去を凌駕したように映る。しかし、技術の進歩とはあたり前にしていた大事なことを忘れさせてしまう▼子供達が浜辺で遊ぶ姿は、百年後、千年後にも見られるのか。海を隔てた三宮で成り立つ宗像大社は、未来のために、過去から学び〝今〟海の環境保全に取り組んでいる。（鈴）

第四回 宗像国際環境一〇〇人会議 〝大いなる海 生命の循環〟

〝大いなる海 生命の循環〟をテーマに海の環境保全を訴える

宗像の鐘崎は、日本海側の海女の発祥の地です。その海女たちもあと二人を残すのみ。海女の一番の収入源であるアワビがほとんど獲れない状況が続いています。これはアワビの餌となる海藻類が枯渇し、海の中が砂漠化する〝磯焼け〟という現象がその原因とされています。また昨年の夏は海水温度三十度を記録しました。鐘崎の漁獲高はピーク時の平成三年約四十五億円から、今では約十九億円と落ち込んでいます。明らかに海の環境がおかしくなっているのです。

宗像は世界文化遺産登録の地として注目を集めていますが、観光振興だけではなく、信仰を守ってきた漁師や農家たちのフィールドである海や里山の環境保全も同時に取り組んでいかなければ、氏子であるムラ人たちの数は減少の一途をたどることになっていくでしょう。そんな思いから、四年前に「宗像国際環境一〇〇人会議」を立ち上げました。目指すところは〝海の鎮守の森構想〟という藻場の再生を中心とした海の環境保全です。

一回目はIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の

❶中学生を対象とする宗像国際育成プログラム。6月18日、神湊の浜辺にどれくらいのゴミが打ち寄せられるのか実際に採集した。❷❸昨年会議のフィールドワークで作製した竹漁礁は、鐘崎の海に沈めた。竹漁礁には参加者が願いを込めた竹の短冊が結われている。❹❺右写真のプログラムで採集したマイクロプラステッィクやその他様々なゴミ。解決策はプラステッィクを減らす。ゴミを川や海に捨てないことしかない。❻過去の育成プログラム。海だけでなく森に入り、山や森の大切さも学んでいる。

パチャウリ議長、ノーベル平和賞を受賞したラモス元東ティモール大統領、スウェーデンのスヴィンソン海洋・海・水担当大使らも参加いただき、二回目はその成果として「宗像宣言」を採択し、宣言文を山本環境大臣に提出、さらには日本ユネスコ協会を通じてユネスコ本部にも提出しました。昨年には漁協、観光協会、環境団体、水産高校、宗像大社、九州大学はじめ民間企業も入り、地元中心に「宗像国際環境会議実行委員会」が立ち上がり、〝Think Global、Act local〟を合い言葉に、地元で環境保全活動を実践し、自分も事務局長として携わっています。昨年は、水産高校が取り組む竹魚礁を会議参加者で作り、鐘崎の海に沈め、また国境を越え流れ着く漂着ゴミを拾うなど、シンポジウムだけではなく、宗像の砂浜、海でフィールドワークを行いました。四回目となる今年は〝大いなる海　生命の循環〟というテーマで、八月二十五日から三日間、開催いたします。

自然環境を守っていく活動は、自然の恵みへの感謝そして大自然を畏れ、自然に対して謙虚な気持ちになることにも繋がってきます。是非、皆さんのご参加お待ちしています。

munakata-eco100.net
宗像国際環境会議実行委員会
事務局長　養父信夫

藤原新也氏写真展を日本橋高島屋で開催

「沖ノ島―神宿る海の正倉院」と題する写真家・藤原新也氏の写真展が七月十九日から八月一日まで、東京・中央区の日本橋高島屋で開催される。

この写真展は当社「沖ノ島」について、藤原氏が撮影した数々の作品を通じて紹介するもの。神々しく幻想的な光景や島から出土した国宝を収めた写真など八十点の作品が展示される。

また、期間中の七月二十三日午後三時から、『神の島　沖ノ島』（平成二十五年、小学館刊）を共著として上梓した藤原氏と安部龍太郎氏が、会場内で特別対談を行なう。

会　　期　：7月19日（水）～8月1日（火）
会　　場　：日本橋高島屋（東京都中央区日本橋2-4-1）8階ホール
入場時間　：午前10時30分から午後7時　※最終日は午後5時
入 場 料　：一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料
お問合せ　：日本橋高島屋 代表 03-3211-4111

「UMI・SACHI推進会議」発足 7月13日東京でシンポジウムを開催

日々、深刻化する地球環境問題を解決すべく始まった宗像国際環境会議。恒久的に環境保全活動を推進し、豊かな海を取り戻すことを目的に法人化を行い、今回「一般社団法人UMI・SACHI推進会議」が発足した。七月十三日には国連大学ウ・タント国際会議場で第1回目のシンポジウムを開催する。

主　催　：一般社団法人UMI・SACHI推進会議
日　程　：2017年7月13日（木）18：30～21：00
会　場　：国連大学ウ・タント国際会議場
参加費　：無料（申込はホームページ詳細ページから）　収容規模：約360名
講師・パネラー：葦津敬之（宗像大社宮司、宗像国際環境会議実行員）、養父信夫（九州のムラ代表理事、宗像国際環境会議事務局長）、Everett Kennedy Brown（クールジャパン官民有識者会議委員）、伊勢谷友介（俳優、リバースプロジェクト）　他
シンポジウム詳細ページ　http://170713.umisachi.org/

沖ノ島祭祀 1

宗像にます女神（一）
―宗像三女神の誕生―

國學院大學　神道文化学部教授　笹生 衛

日本神話の中で、よく知られた場面に天石窟がある。天照大神が治める高天原。そこを弟の素戔嗚尊が訪ねて大暴れ、天照大神は恐れて天石窟へ隠れ、世の中は暗闇になる。

この前段、高天原を訪れた素戔嗚尊の真意を確かめるため、天照大神と素戔嗚尊の間で「誓約」という遣り取りが行われた。持ち物を交換し男女の神々を生み分けたのだ。天照大神は素戔嗚尊の剣を、素戔嗚尊は天照大神の勾玉を、それぞれ受け取り口に含み噛み砕き、吹き出した息吹の中から神々が生まれた。素戔嗚尊の剣から生まれた三柱の女神こそ、宗像三女神なのである。かたや、天照大神の勾玉から生まれた五柱の男神は、天皇家や豪族の直接の祖先となった。宗像三女神は、日本神話の重要な場面で登場したのである。

では、宗像三女神とは、いかなる神々なのか、名前から考えてみよう。女神の名前と誕生の順序について、日本最古の歴史書『古事記』と、古代日本の正史『日本書紀』は様々な内容を記録している。これらが編纂された七世紀後半、宗像三女神の信仰は、すでに伝統的なものとなっていた証拠だろう。

『日本書紀』の本文は、三女神が素戔嗚尊の剣から①田心姫、②湍津姫、③市杵嶋姫の順で生まれたとする。ところが第一の一書（本文とは異なる記録）は、①瀛津島姫、②湍津姫、③田心姫の順で生まれ、第三の一書では、①瀛津島姫命（またの名、市杵嶋姫）、②湍津姫命、③田霧姫命の順とする。第二の一書は、剣ではなく勾玉から①市杵嶋姫命、②田心姫命、③湍津姫命の順で生まれたと書く。

一方、『古事記』では、須佐之男命の剣から、①多紀理毘売命（またの名、奥津島比売命）、②市寸島比売命（またの名、狭依毘売命）、③多岐都比売命の順で誕生する。

三女神の名前は、次のように整理できる。

◎田心姫（タゴリヒメ）＝田霧姫命＝多紀理毘売命＝タギリヒメノミコト。

◎湍津姫＝湍津姫命＝多岐都比売命＝タギツヒメノミコト。

◎市杵嶋姫＝市杵嶋姫命＝市寸島比売命＝イツ（チ）キシマヒメノミコト。

「田心姫・タゴリヒメ」は「田霧姫命・タギリヒメノミコト」であり、「オキツシマ」つまり沖津宮が鎮座する沖ノ島の女神としての性格がうかがえる。沖ノ島周辺の海上で発生する「霧」と関係するのだろうか。次の「湍津姫命・タギツヒメノミコト」のタギツは、「血潮が滾る」のタギルと同じで、水が激しく動く様子を表す言葉だ。この女神の名は、玄界灘の激しい海流を示すと考えられる。そして、「市杵嶋姫命・イツキシマヒメノミコト」のイツキは、身を清め神を祀ることを意味する。だから「イツキシマヒメノミコト」は身を清め神を祀る島の女神となる。さらに、瀛津島姫命（オキツシマヒメノミコト）の別名があるため、「沖ノ島」を、身を清め神を祀る島とし、島を女神とした名前と考えられる。

宗像三女神の名前からは、玄界灘の自然環境との深い関係がうかがえる。

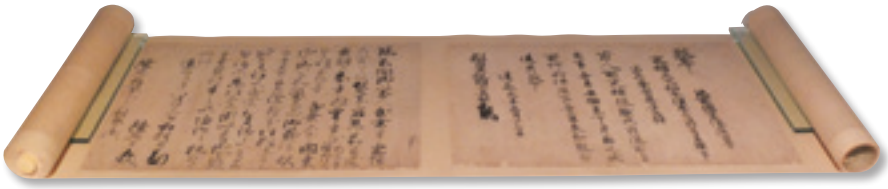
神宝館だより 4
八万点ノ国宝収蔵

宗像大社が所蔵している古文書を、「宗像大社文書」と総称する。平安時代末、永万元年（一一六五）の年号を持つ古文書を最古として、戦国時代が終わるまでの古文書＝中世文書は約四百点、江戸時代の古文書＝近世文書は、史料整理を終えたものが約三千点、まだまだ未整理の古文書も多く、最終的な点数は次の世代に委ねねばならない。

宗像大社の中世文書は、その全体の点数、原本の多さ、年代の古さ、内容の豊富さから、全国屈指のものである。福岡県内はいうに及ばず九州全体を見回しても、点数は宇佐八幡宮に次ぐであろう。中世の前半期である鎌倉時代の文書が多いことが、特徴のひとつであるが、もうひとつ、中世文書の多様な様式が含まれていることも大きな特徴である。古い時代ほど伝えられている古文書の多くは公けの文書であり、上意下達の内容である。中世文書では、これらを差し出した側から三つの様式に分類する。①律令制の法律「公式令」のもとで出された公式様文書　②皇室・公家が出した公家様文書　③武家が出した武家様文書　である。宗像大社文書には、この三様式の全てが含まれている。

まだ律令制が機能していた平安時代の公式様文書、庄園制のもとで皇室領庄園の現地管理者となったことで、皇室から下達された公家様文書、鎌倉・室町時代には将軍の家臣である御家人となったことで、幕府から下達された武家様文書。全てがある。

日本の中世史を学ぶには中世文書の勉強が必須であるが、宗像大社文書はその教科書になり得る質の高い古文書類なのである。（河）



時満ちて道ひらく 造営日記 34
～第二宮・第三宮修復工事～

本殿に続き、幄舎の屋根葺替えも終え、現在新緑のなかに銅板が光輝を放っている。木工事も着々と進められ、幄舎腰壁の板が新調された。今後は瑞垣、鳥居の造作などを行い、八月末の竣工に向け工事は順調に進められている。

第671回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

老いたれば花さかりても悲しかりテレビにて観るにぎわう様を　池浦千鶴子
　TVで見るだけのお花見はかなしい。二・三句〈花のさかりは寂しくて〉としては。

廃校の島を出航する師の手花とテープの束を振り切る　早川　祥三
　別れを惜しむ師。〈振り切る〉は花・テープを拒んだとも読めるので、〈束振りやまず〉。

縁石に沿いて溜まりし竹の葉は関節弱き足にやさしい　萩原　勉
　葉を踏んだ足裏の感触が優しいのだ。三句〈溜まれる〉結句〈わが足に優し〉としては。

青春を兵器工場の同窓会一を語れば百を通じて　豊田ミツ子
　生死を共にした兵器工場の友人との絆の強さ。初句を〈わが青春〉結句〈～通じる〉と。

なんじゃもんじゃの下枝をくぐり花陰の丸き陰出づ強き日差しへ　佐々木和彦
　花咲く木陰の優しさ。上の句の語順を変え〈花咲けるなんじゃもんじゃの枝くぐり〉。

しなやかなま白き花の優しかり交々ゆるるよヒトツバタゴは　山本　静子
　なんじゃもんじゃとも呼ばれるヒトツバタゴの花をよく見た作者。三句〈やさしくて〉。

池のうへに伸びたる枝より楠の実は風くるたびに散りしく水に　山﨑　公俊
　風景を深く丁寧に見た作者。二句〈伸びる枝より〉下の句〈風吹くたびに水面に散れり〉。

幾年(いくとし)もかかり集(あつ)めし美術品最期(びじゅつひんさいご)の展示(てんじ)ユリックスにて　秋吉　嘉範
　美術品収集家の作者の、最後の展示会。二句〈かけて集めし〉四句〈最後と展示す〉。

うぐいす語がわかるか猫は耳たてて居りしが坂を下りゆきたり　森　龍子
　景がよく見える。〈うぐいすの言葉わかるや耳たてて居りし○猫坂下りゆく〉。○には虎・三毛など

母の日のケーキ華やかならびけり立ち寄る店にひとりお茶する　北野カズミ
　一人でお茶する作者の思いは？二句以下〈～華やかに並べいる店に立ち寄り～〉。

道添いの空地に黄金(こがね)の花は群れ風に揺られて夏を招くよ　本田エリナ
　明るい景に季節感があり、口語が軽やか。三句・四句〈花の咲き風に揺れては〉。

手櫛にて汗の髪にも風通すこのひとときの為に登り来　吉崎美沙子
　上の句の具体が効いて、説得力のある歌。上の句〈手櫛もて汗ばむ髪に風通す〉と。

第644回　俳句

初なりの苺を二つたべにけり　石松　弘次

◆選者詠

梅雨の午後妣のブローチつけて出る
すこし気のはる用はたすべく
陽光と時をたくはえ熟したる
トマト重たしその朱の濃く

御造営奉賛者御芳名

（平成二十九年五月）（順不同・敬称略）

一五〇、〇〇〇円
伊賀市　長谷川惠子

一〇〇、〇〇〇円
廿日市市　中村　祐昌
神戸市　中村　高浩

五〇、〇〇〇円
桜井市　村島　和徳

二〇、〇〇〇円
伊賀市　黒田　関男
伊賀市　黒田　大助

一〇、〇〇〇円
蕨市　椿　典子
横浜市　大﨑　貴浩
茂原市　田中　大介
宗像市　嶋倉　智子
宗像市　嶋倉　剛
東伯郡　坂本　有司
中津川市　原　一浩
茅ヶ崎市　栗谷　利昭
神戸市　中村　高浩
金沢市　藤田　賢次
大分市　麻生　英治
伊賀市　福島　勇気
足立区　鹿浜　恵代
浅口市　妹尾　公運

六、〇〇〇円
糸島市　国分　浩一・一美

五、〇〇〇円
横浜市　多田　圭吾
行橋市　豊瀬　仁須
船橋市　北株　久代
福岡市　乙藤美和子
福岡市　西本　和恵
福岡市　加藤　澄美
福岡市　小林　博文
東彼杵郡　松倉　繁信
西尾市　矢代　陽一
中央区　矢吹由香里
田川市　原田みやび
高槻市　中村　優子
台東区　木村　三雄
世田谷区　平瀬　由紀
堺市　毛穴　光俊
京都市　福田　清玉

北区　岩田　裕助
川崎市　平瀬　資宏
刈谷市　深谷　健
春日市　野村　光
春日井市　清水　雅輝
岡崎市　紀史原実春
岡崎市　菊池　寿夫
板橋区　池田　五月
芦屋市　髙橋　宗果
明石市　浅田　康夫
中村　宏

四、〇〇〇円
足立区　鹿浜　晶代
足立区　鹿浜　佳子
足立区　石津　浩子

三、〇〇〇円
横須賀市　山本　欣ニ
目黒区　宗像　敬明・敬子
宗像市　原口　順子
福岡市　井上　泰博
名古屋市　森本則子・奈美子
高槻市　中村　優子
久留米市　森下　昭義
大阪市　福地　秋夫
出水市　川本

二、〇〇〇円
横浜市　是永　容作
船橋市　船橋　昭憲
福岡市　神山　薫
福岡市　髙尾　昭吉
福岡市　波多江純眞
八王子市　堀之内るり子
中津市　髙椋　清
中郡　松田　寛子
佐世保市　一條　広光
佐世保市　瀧本　泰三・恵子
神戸市　橋本　廣
神戸市　前田　芳実
葛飾区　柴田　孝次
海南市　中家　紘美
遠賀郡　浜中　俊晴
茨木市　西中　弘美
阿蘇郡　岡本和太郎
吉田　衛司

むなかた
文月（ふづき） 第677号
2017年7月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62―1311（代）　http://www.munakata-taisha.or.jp/

7月 まつりごよみ

1日	総社月次祭　午前11時 引続き　高宮祭、 宗像護国神社祭
15日	総社月次祭　午前11時 引続き　高宮祭
29日	第62回中津宮七夕揮毫会　午前9時 於＝大島・中津宮
31日	夏越の大祓神事　午後5時 大祓式　於＝神門前 夏越祭　於＝本　殿

編集後記

梅雨入りの報道がありながらも、雨が降らず様々なところで水不足の声が聞こえている。また六月にも関わらず気温が急激に上昇し夏日となり、ゲリラ豪雨、霰や雹など異常気象が頻発した▼これも地球温暖化の影響なのだろうか…海水温の上昇がそれの原因とも言われている。宗像の海の環境も悪化の一途をたどるばかりである▼海を隔て三宮が鎮座する宗像大社。神社としての祈りもさることながら、「海の鎮守の杜」を守り後世に伝えていく為にも環境問題に対しても、警鐘を鳴らしていきたい。

（黒）

宗像大社